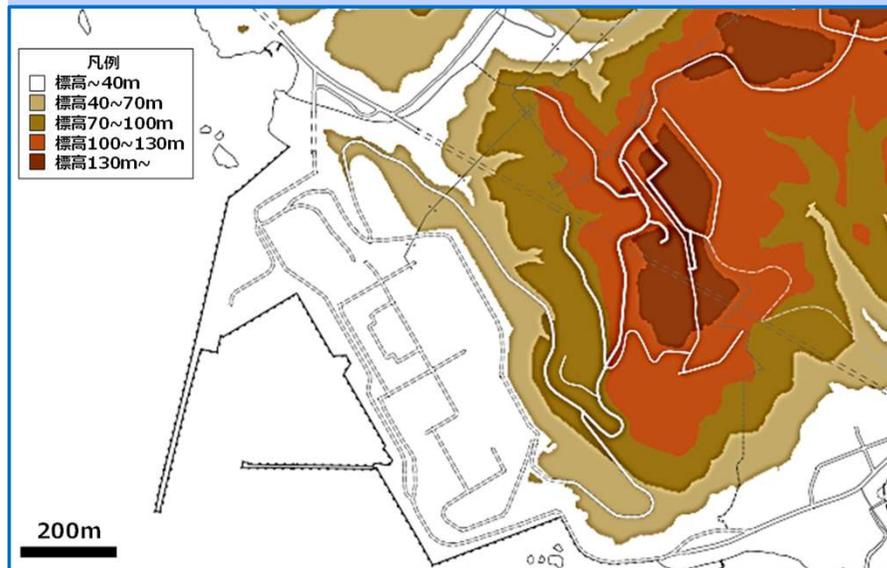
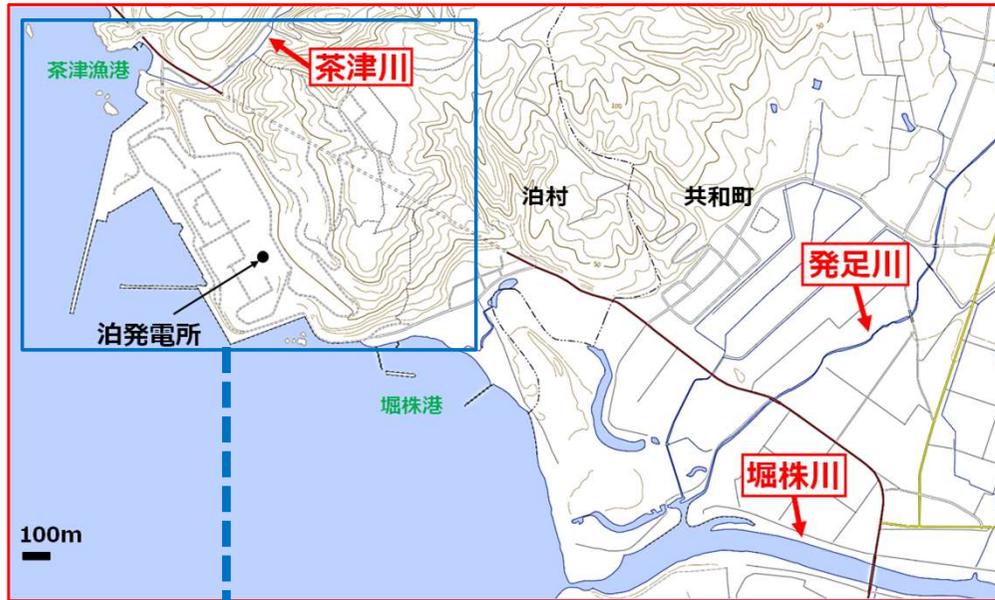


泊発電所 3号炉 現地確認資料集

2022年 9月 8日

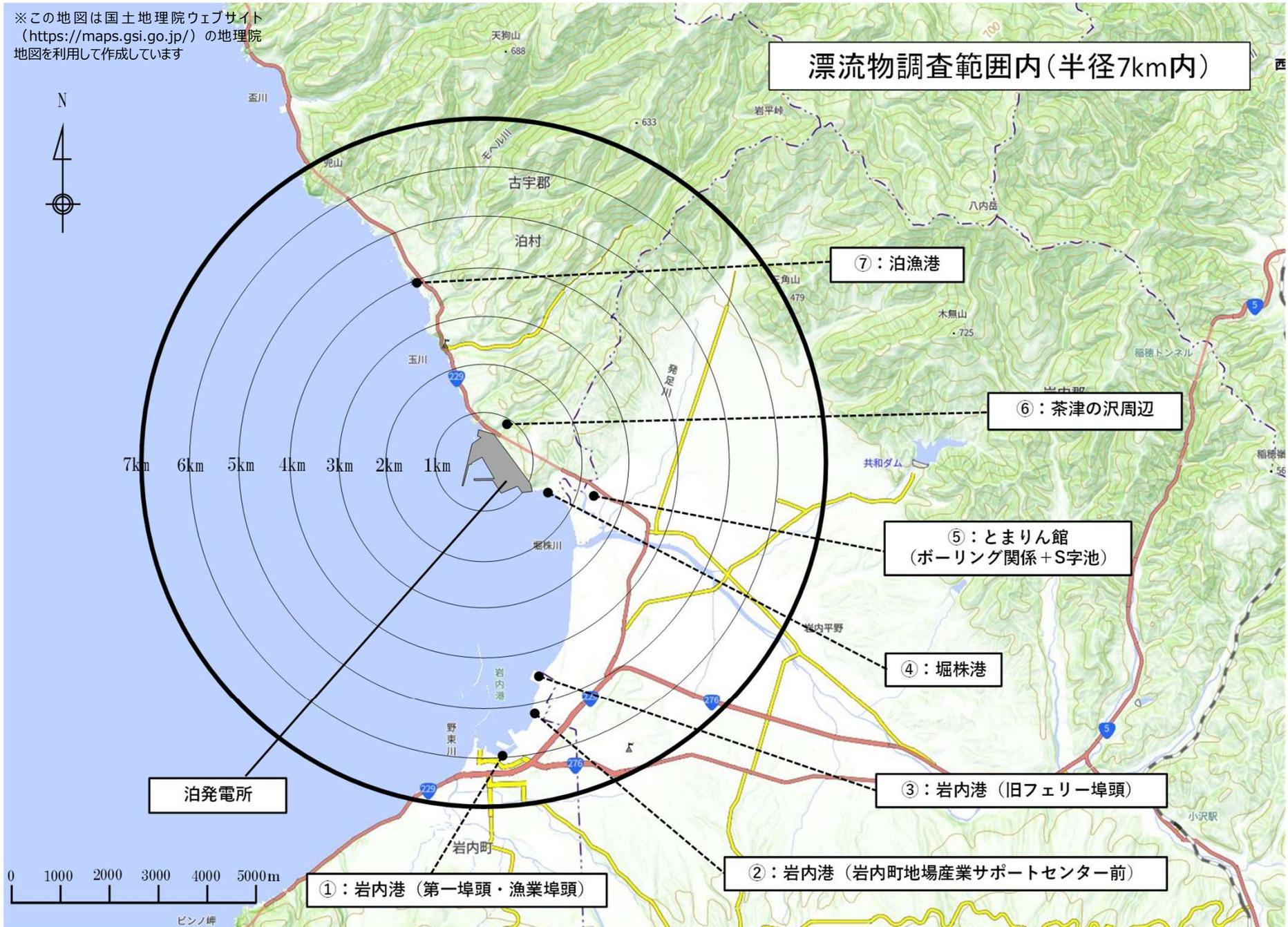
北海道電力株式会社

【全般】 泊発電所の位置

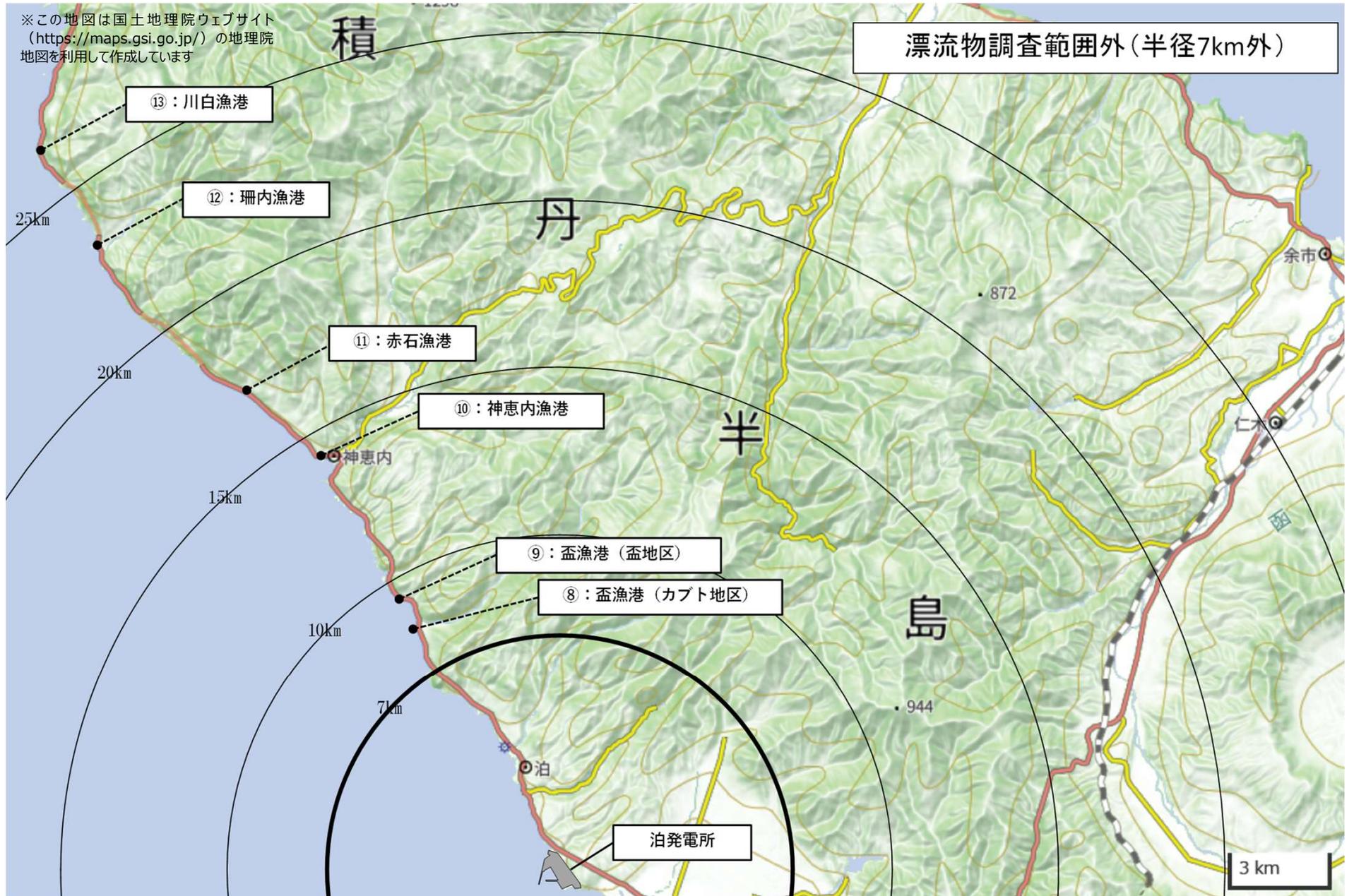


【全般】津波漂流物

※この地図は国土地理院ウェブサイト
(<https://maps.gsi.go.jp/>) の地理院
地図を利用して作成しています



【全般】津波漂流物



【全般】 津波漂流物

調査分類B（敷地外陸域）の調査結果（まとめ資料から抜粋）
 青塗箇所：今回の調査で確認可能

			
<p>No. 1 車両 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No. 2 コンテナ・ユニットハウス (岩内地区)</p>	<p>No. 3 油槽所 (軽油・重油タンク) 岩内港 (第一埠頭) で確認可能</p>	<p>No. 4 漁具 岩内港 (第一埠頭) で確認可能</p>
			
<p>No. 5 工事用資機材 (共和地区)</p>	<p>No. 6 排水処理施設 (共和地区)</p>	<p>No. 7 家屋 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No. 8 ガソリンスタンド 移動中のバスから確認可能</p>
			
<p>No. 9 商業施設 (岩内地区)</p>	<p>No. 10 工業施設 (魚市場・水産加工施設等) 岩内港 (漁業埠頭) で確認可能</p>	<p>No. 11 宿泊施設 (岩内地区)</p>	<p>No. 12 砕石プラント (泊地区)</p>

【全般】津波漂流物

調査分類B（敷地外陸域）の調査結果（まとめ資料から抜粋）
 青塗箇所：今回の調査で確認可能

<p>No.13 病院 (岩内地区)</p>	<p>No.14 学校 (岩内地区)</p>	<p>No.15 駅舎 (バスターミナル) 9/8 朝の集合場所から確認可能</p>	<p>No.16 その他公共施設 泊漁港周辺で確認可能</p>
<p>No.17 係留施設・防波堤・護岸 (岩内地区)</p>	<p>No.18 物揚クレーン (岩内地区)</p>	<p>No.19 配電柱・街灯・信号機 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No.20 鉄塔 移動中のバスから確認可能</p>
<p>No.21 灯台・航路標識 岩内港で確認可能</p>	<p>No.22 モニタリングポスト (泊地区)</p>	<p>No.23 ゴミステーション 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No.24 漁船/不使船 岩内港・泊漁港等で確認可能</p>

【全般】 津波漂流物

調査分類B（敷地外陸域）の調査結果（まとめ資料から抜粋）
 青塗箇所：今回の調査で確認可能

			
<p>No.25 ソーラーパネル 岩内港（旧フェリー埠頭）で確認可能</p>	<p>No.26 制御盤 岩内港（第一埠頭）で確認可能</p>	<p>No.27 看板・標識 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No.28 石碑・銅像 岩内港（旧フェリー埠頭）で確認可能</p>
			
<p>No.29 灯油タンク 移動中のバスから確認可能</p>	<p>No.30 ガスボンベ 移動中のバスから確認可能</p>		

【現地確認①～③】 岩内港

- ①：岩内港（第一埠頭・漁業埠頭）
- ②：岩内港（岩内町地場産業サポートセンター前）
- ③：岩内港（旧フェリー埠頭）

※この地図は国土地理院ウェブサイト
(<https://maps.gsi.go.jp/>)の地理院
地図を利用して作成しています



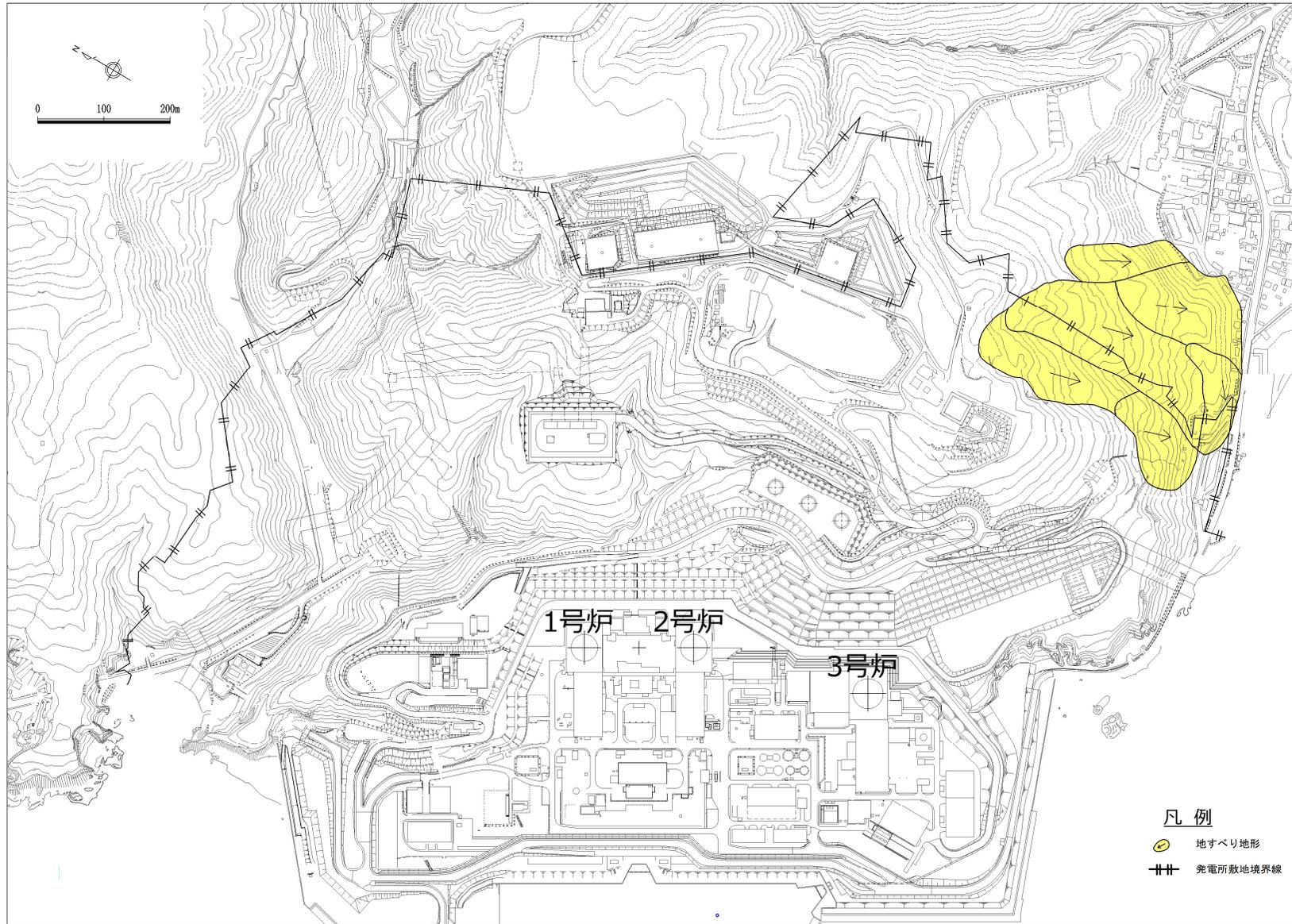
【現地確認④(a)】 堀株港

④ : 堀株港



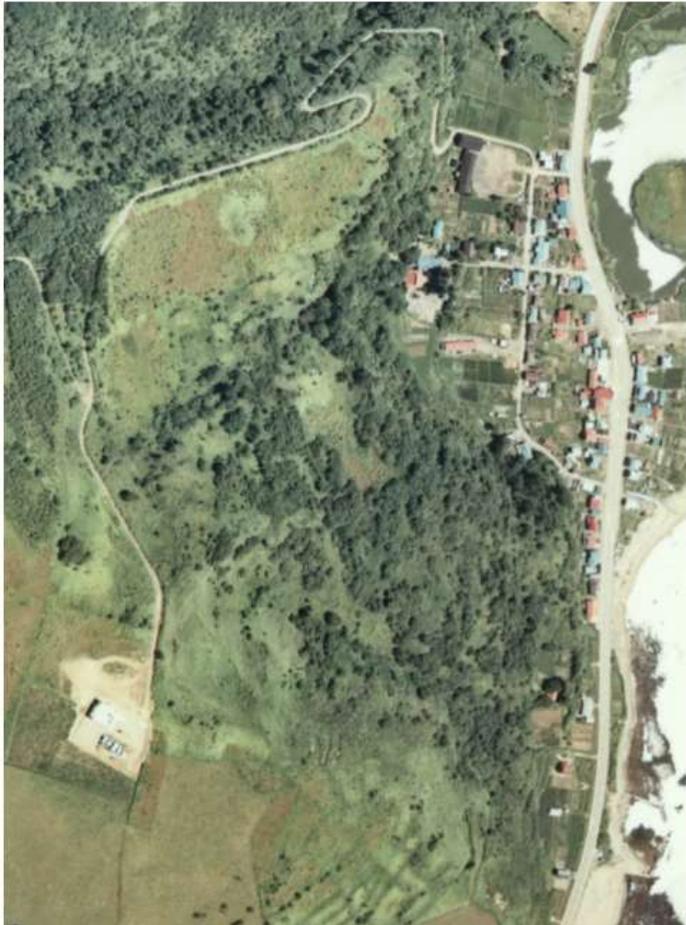
【現地確認④(b)】 地すべり地形 (堀株側)

敷地における当社空中写真判読の結果、敷地の南東側 (堀株側) に地すべり地形が認められる。

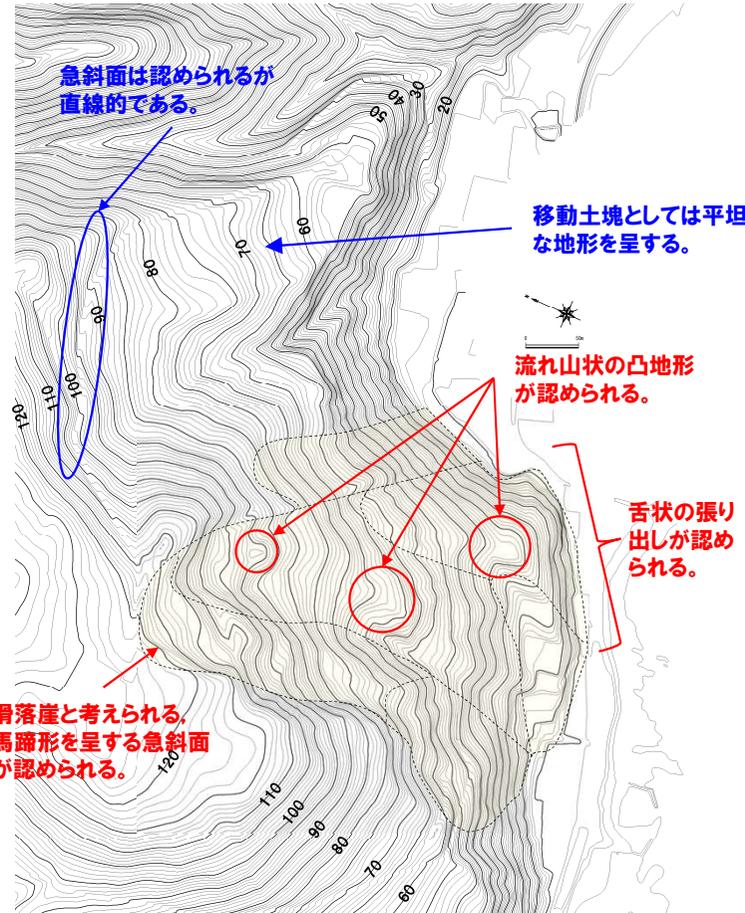


敷地における当社地すべり地形判読結果

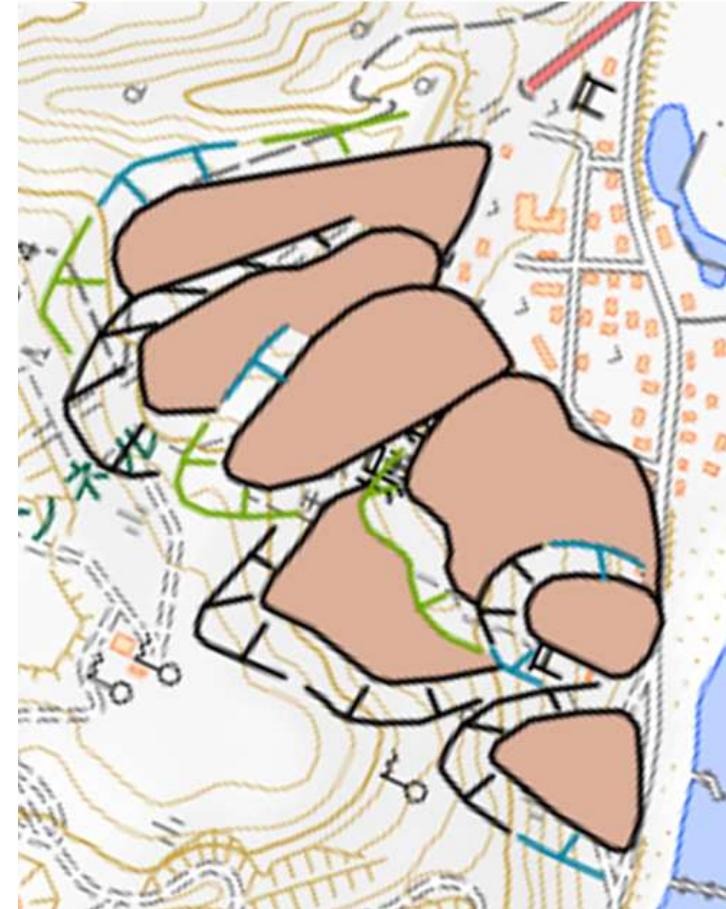
【現地確認④(b)】 地すべり地形 (堀株側-敷地内-)



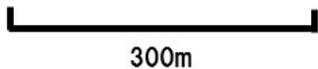
空中写真 (1976年国土地理院撮影)



当社で抽出した地すべり地形
(地形図は、1976年国土地理院撮影の
空中写真を使用した空中写真図化により作成
(1mコンター))

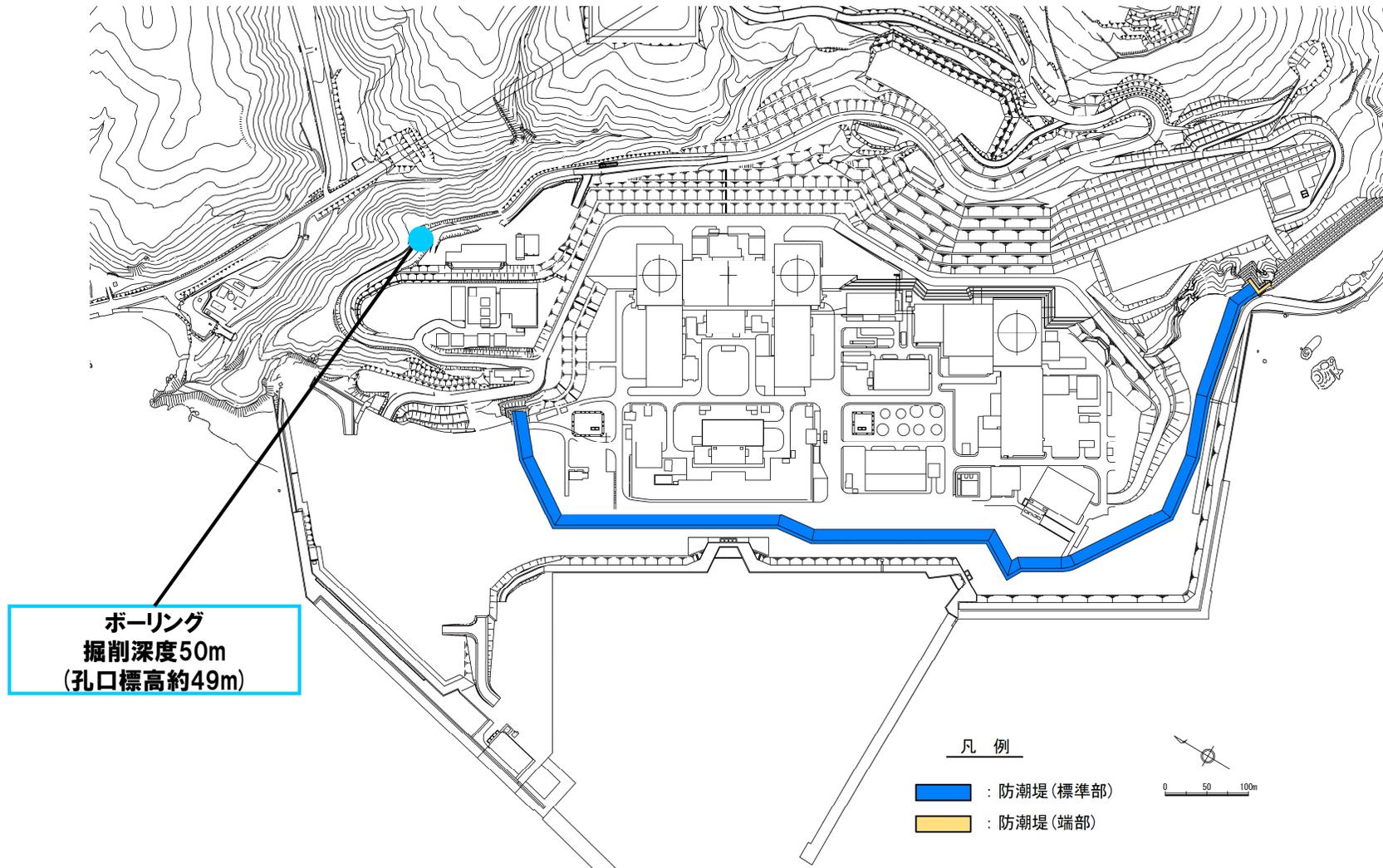


防災科学技術研究所
「1:50,000地すべり地形分布図」



【現地確認⑤】 ボーリングコア（防潮堤北側端部に位置する地山）

防潮堤の北側端部に位置する地山において実施している、ボーリングの調査位置を下図に示す。当該ボーリングは標高約49m~-1mまで掘削しており、標高約44mから、基盤岩である新第三系上部中新統神恵内層の火砕岩(砂質凝灰岩、火山礫凝灰岩及び凝灰角礫岩)を確認している。



敷地の平面図

【現地確認⑤】 ボーリングコア (防潮堤北側端部に位置する地山)

柱状図(1/4)

孔口標高:48.70m

孔口標高 48.70m 掘進長 50.00m



 :F-1断層

コア写真 (深度0~15m)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	記 事
1	48.17	0.53	[Symbol]	砂礫	灰褐	礫径φ80mm以下の角-垂円礫が70-80%混じる砂礫。基質はシルト質砂。
	47.68	1.02		礫	暗灰	礫径φ70mm以下の角礫からなる。礫種は安山岩礫主体。
2	45.68	3.02	[Symbol]	砂礫	褐灰	礫径φ60mm以下(最大礫径φ80mm)の垂角-円礫が70-80%混じる砂礫。礫種は安山岩・変質安山岩・泥質凝灰岩・デイサイト・火山礫凝灰岩。基質は細粒-粗粒砂主体で、シルト少量混じる。深度2.29-2.38m:礫分やや少ない。
		45.20				
4	44.46	4.24	[Symbol]	砂礫	褐灰	礫径φ120mm以下の垂角-円礫が80%程度混じる砂礫。礫種は安山岩・デイサイト主体。基質は淘汰のやや悪い細粒-粗粒砂。
		6.00				
7	6.88	∠50°	t=1mm程度で褐色を呈する軟質粘土が挟在。			
8	6.90	∠50°	t=1mm程度で褐色を呈する軟質粘土が挟在。			
9	8.27	11.90	割れ目少ない。			
12	36.04	12.66	深度11.90-12.43m:風化及び変質を被り、軟質。上下面は∠60°程度。深度12.30m:∠70°、t=2-3mmで白褐色を呈する軟質粘土が挟在。深度12.43m:∠60°、t=1-3mmで白色を呈する軟質粘土が挟在。			
13	35.37	13.33	暗褐灰			
14	34.27	14.43	暗灰			
15			暗褐灰			

↕ 変更

柱状図 (深度0~15m)

【現地確認⑤】 ボーリングコア (防潮堤北側端部に位置する地山)

柱状図(2/4)

孔口標高:48.70m

孔口標高 48.70m 掘進長 50.00m



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	記 事
16						深度15.60-16.30m: $\angle 75-90^\circ$ 、 $t=20\text{mm}$ 以下で褐色を呈する固結した粘土が挟在。
17				砂質凝灰岩	暗褐灰	
18						深度18.55m: $\angle 60^\circ$ 、 $t=10-30\text{mm}$ で淡褐色を呈する軟質粘土が挟在。
19						深度18.70m: $\angle 70^\circ$ 、 $t=30\text{mm}$ 程度で角礫が挟在。
20	28.73	19.97	▲▲▲▲▲	火山礫凝灰岩	褐灰	礫径 $\phi 15\text{mm}$ 以下の安山岩礫・変質安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。岩芯まで弱く褐色を呈し、やや軟質で、割れ目少ない。割れ目沿いは強く褐色を呈する。
21	27.65	21.05	▲▲▲▲▲	砂質凝灰岩	暗褐灰 ～ 褐灰	中粒-粗粒の砂質凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。割れ目沿いは強く褐色を呈する。
22	26.37	22.33	▲▲▲▲▲			礫径 $\phi 10\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。硬質で、割れ目少ない。割れ目沿いに褐色を呈する。
23			▲▲▲▲▲	火山礫凝灰岩	暗灰 ～ 褐灰	
24			▲▲▲▲▲			
25			▲▲▲▲▲			
26			▲▲▲▲▲			
27			▲▲▲▲▲			
28			▲▲▲▲▲			
29			▲▲▲▲▲			
30			▲▲▲▲▲			

コア写真 (深度15~30m)

柱状図 (深度15~30m)

【現地確認⑤】 ボーリングコア (防潮堤北側端部に位置する地山)

柱状図(3/4)

孔口標高:48.70m

孔口標高 48.70m 掘進長 50.00m



標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
31	17.84	30.86	▲▲▲▲▲	火山礫 凝灰岩	暗灰 ~ 褐色	
32	16.92	31.78	▲▲▲▲▲		灰褐	礫径φ70mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 やや硬質で、割れ目少ない。一部割れ目沿いに弱く褐色を呈する。 深度31.18-31.30m:基質中にt=20-30mm空洞あり。褐色を呈する。
33			▲▲▲▲▲		灰	
34			▲▲▲▲▲			深度34.67m:∠40°、t=5-7mmで茶褐色を呈する脈が挟在。
36	12.92	35.78	▲▲▲▲▲			深度35.78-40.64m:割れ目沿いに弱く褐色を呈する。
37			▲▲▲▲▲			
38			▲▲▲▲▲		灰褐	
39			▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩		
40			▲▲▲▲▲			
41	8.06	40.64	▲▲▲▲▲			深度40.64-41.23m:網状の割れ目やや多い。
42			▲▲▲▲▲			深度41.63-41.67m:∠25°、t=20mmで礫が挟在。
43			▲▲▲▲▲		灰	深度42.80-42.84m:∠10-15°、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。 深度43.00m:∠10°、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。
44			▲▲▲▲▲			深度44.13-45.10m:網状の割れ目やや多い。
45			▲▲▲▲▲			

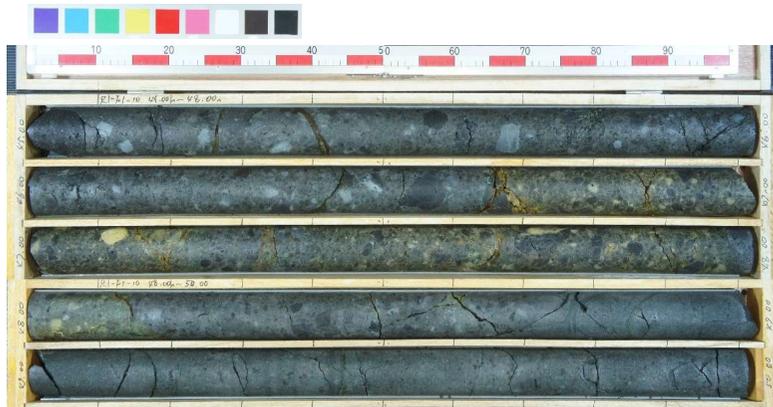
コア写真(深度30~45m)

柱状図(深度30~45m)

【現地確認⑤】 ボーリングコア (防潮堤北側端部に位置する地山)

柱状図(4/4)

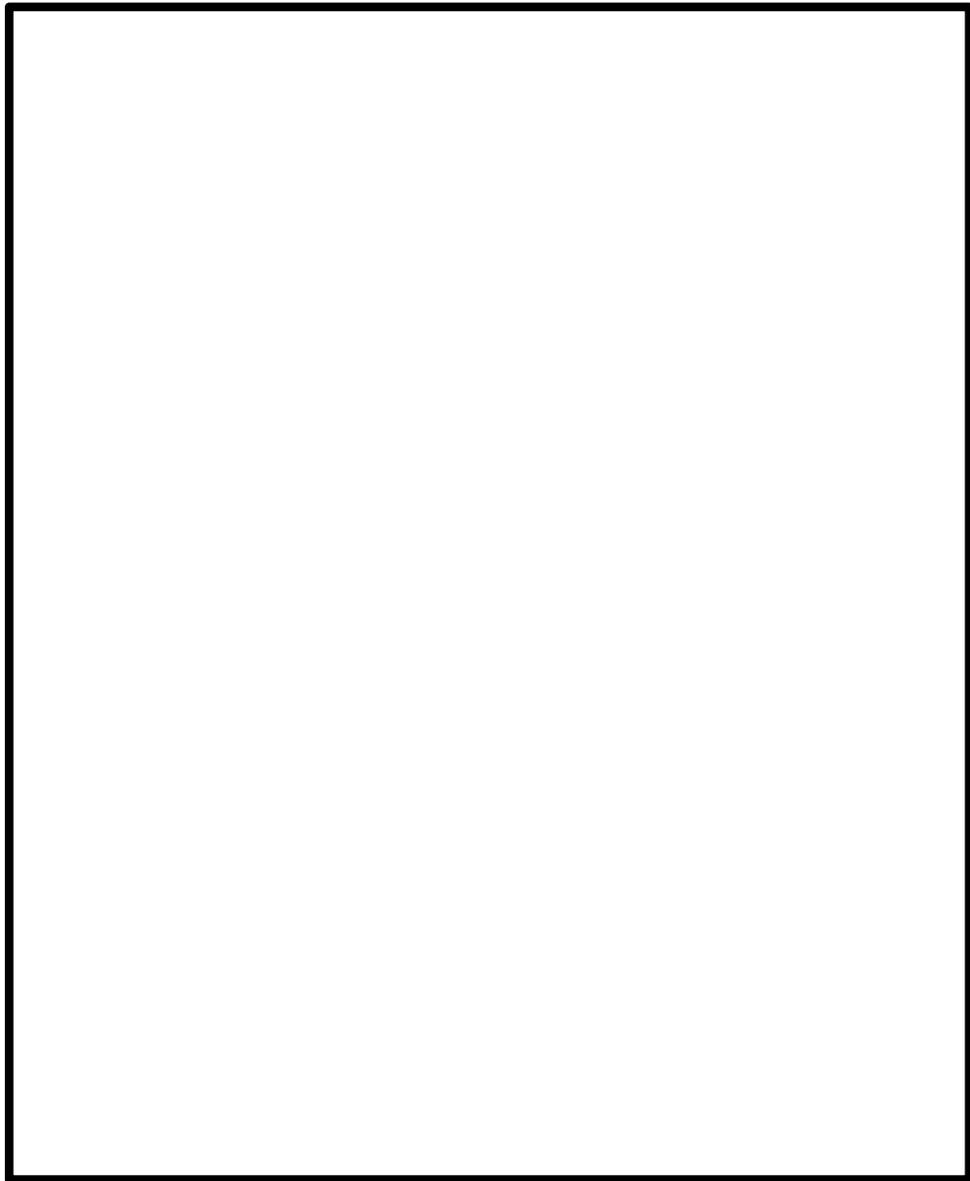
孔口標高:48.70m



孔口標高 48.70m 掘進長 50.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事	
46		2.04	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	灰	深度45.26m: ∠10°、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。 深度45.40m: ∠30°、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。	
47		46.66			灰褐	深度46.66-48.14m: 割れ目沿いに弱く褐色を呈する。	
48		0.56			48.14	灰	深度49.13-50.00m: 割れ目やや多い。
49							
50	-1.30	50.00					

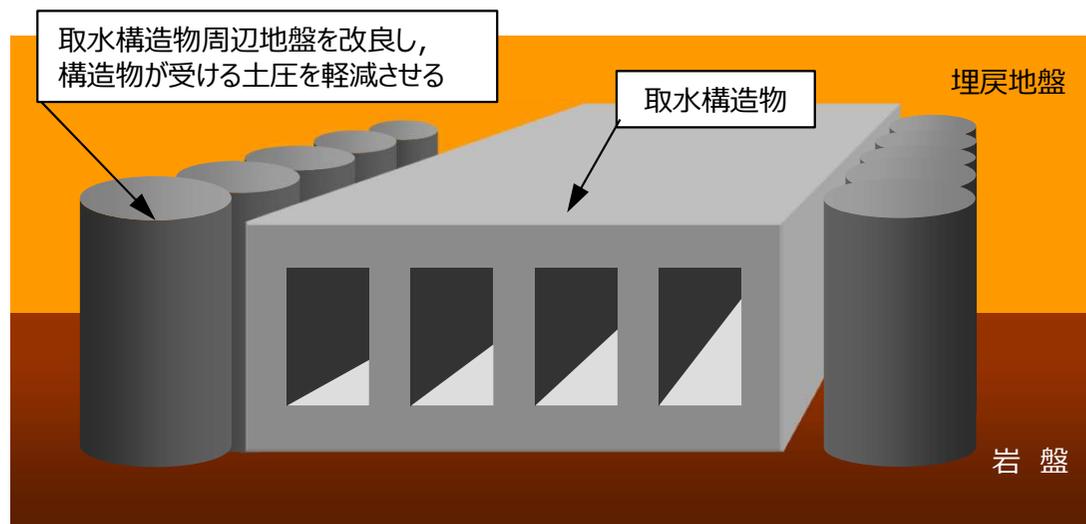
【現地確認⑤】 ボーリングサンプル (1,2号地盤改良)



施工位置図

施工概要

項目	内容
対象設備	1, 2号機取水路, スクリーン室, 海水管ダクト
工期	平成20年2月～平成20年12月
施工概要	高圧噴射攪拌工法により, 構造物周辺地盤の改良を実施し, 地震時の土圧を軽減させる耐震裕度向上工事を実施。

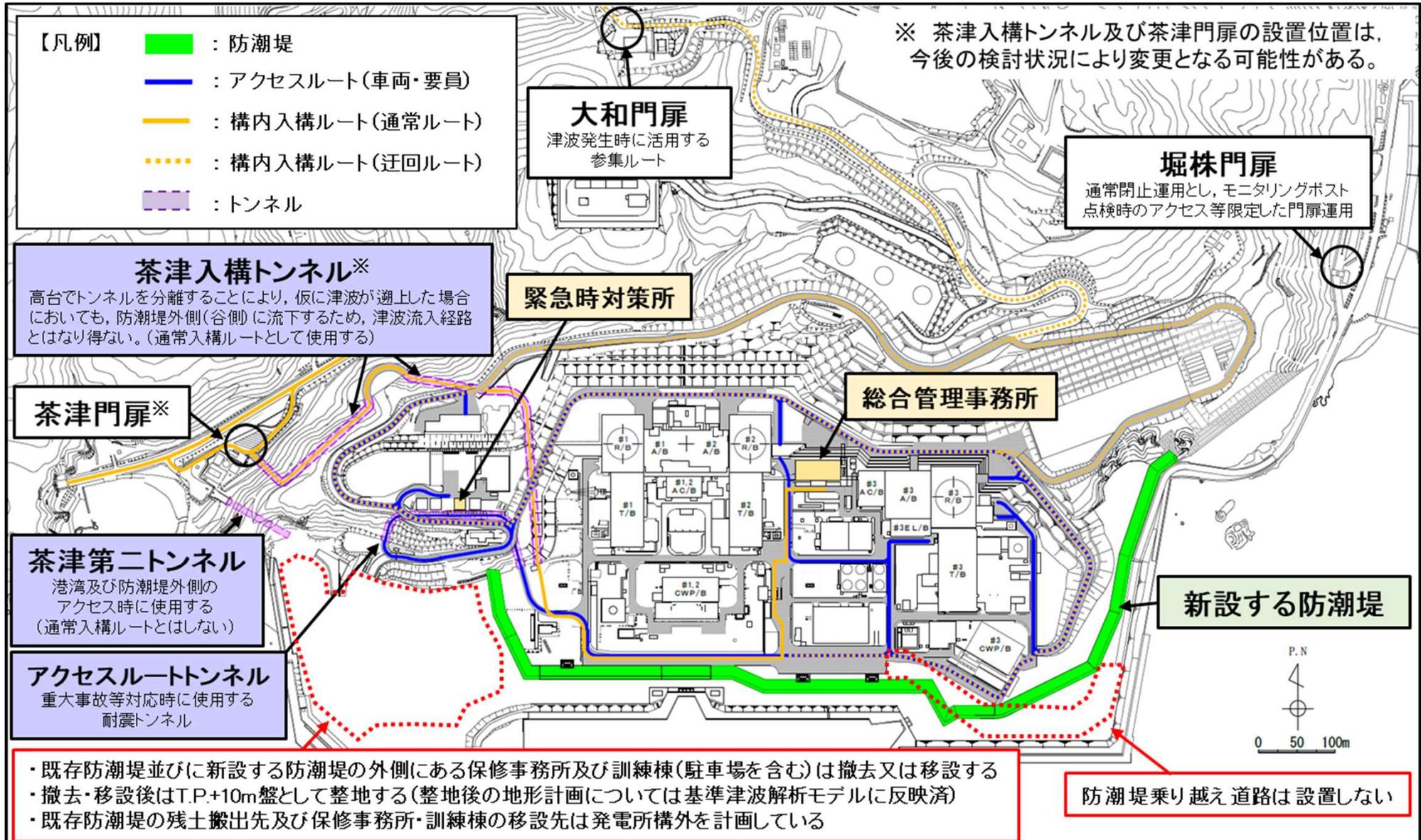


耐震裕度向上工事イメージ図

□ : 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

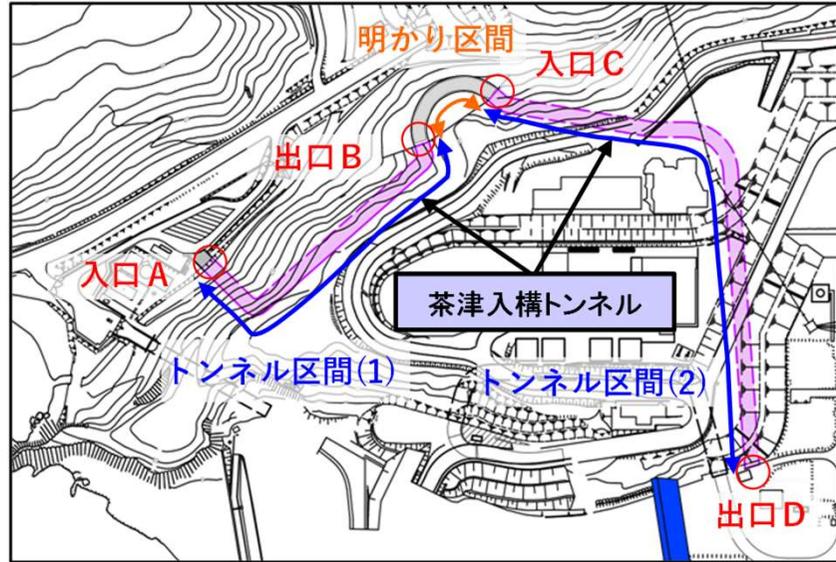
【現地確認⑥(a)】 茶津入構トンネル

新設する防潮堤線形を考慮し、新たな入構ルートを構築する

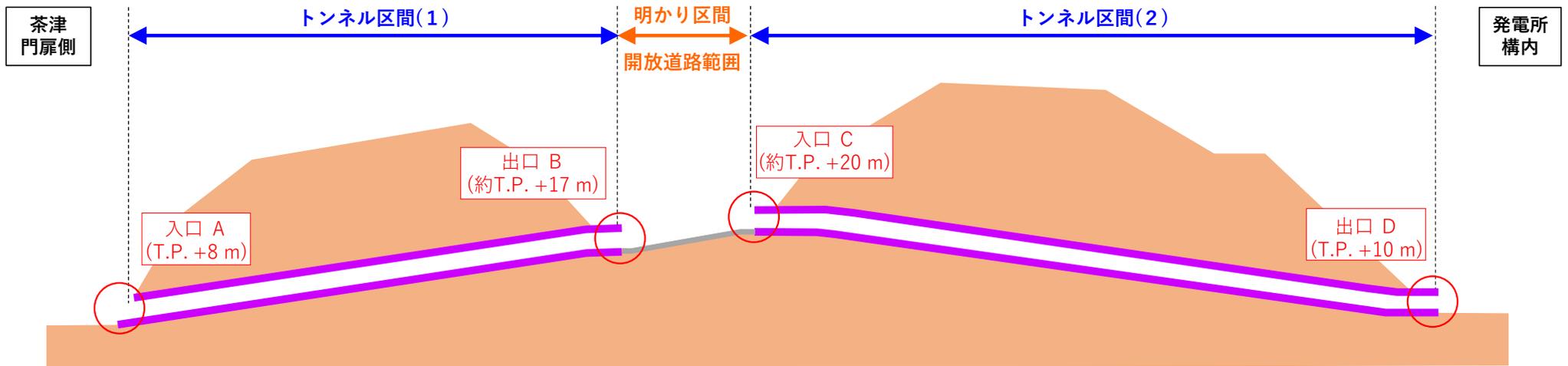


【現地確認⑥(a)】 茶津入構トンネル

茶津トンネルの概要



茶津入構トンネル 平面図
(令和4年7月28日審査会合資料(一部修正))

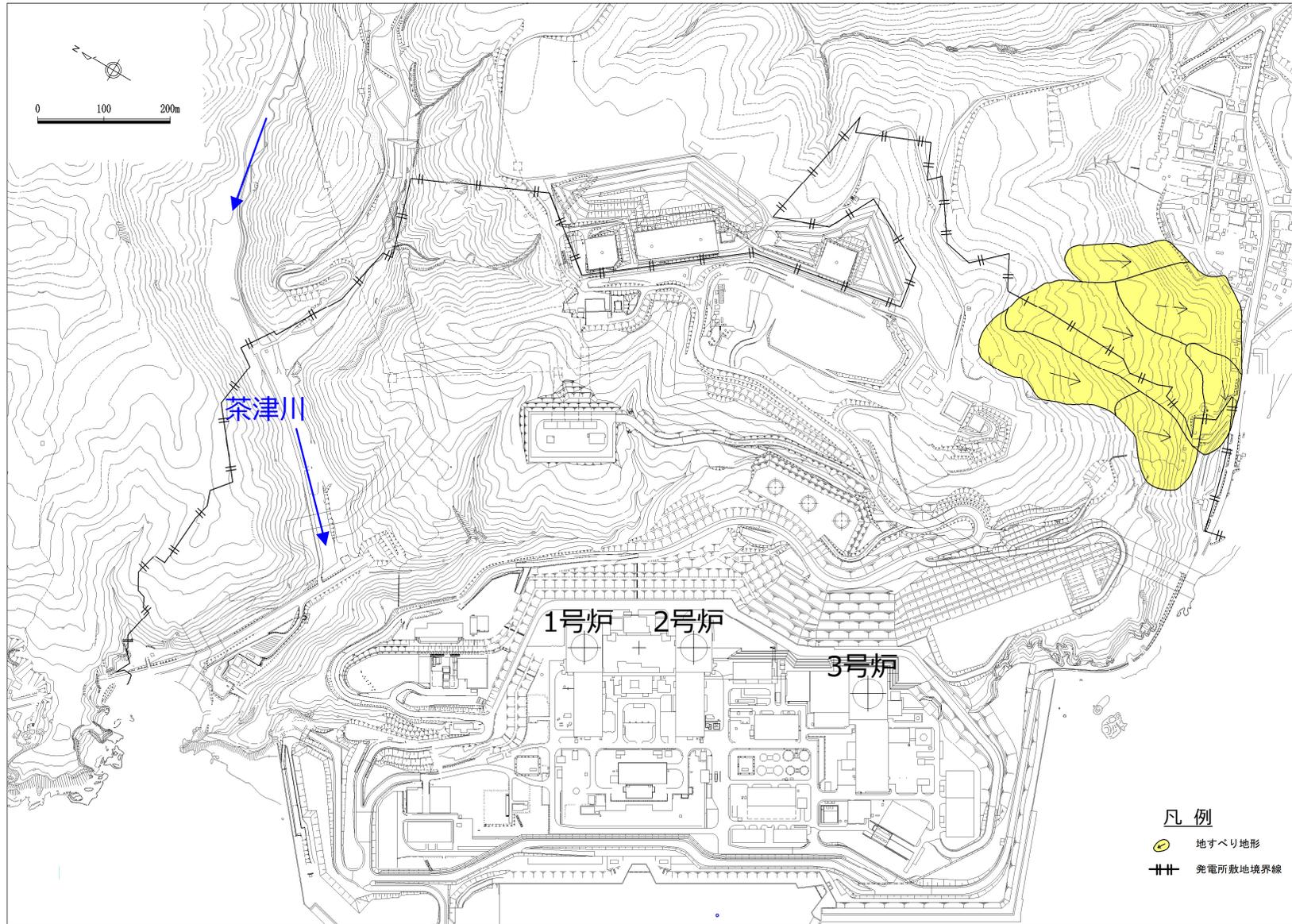


茶津入構トンネル 縦断図
(令和4年7月28日審査会合資料(一部修正))

※設置位置は、今後の検討状況により変更となる可能性がある。

【現地確認⑥(b)】 地すべり地形 (茶津側)

敷地における当社空中写真判読の結果、敷地の南東側 (堀株側) に地すべり地形が認められる。

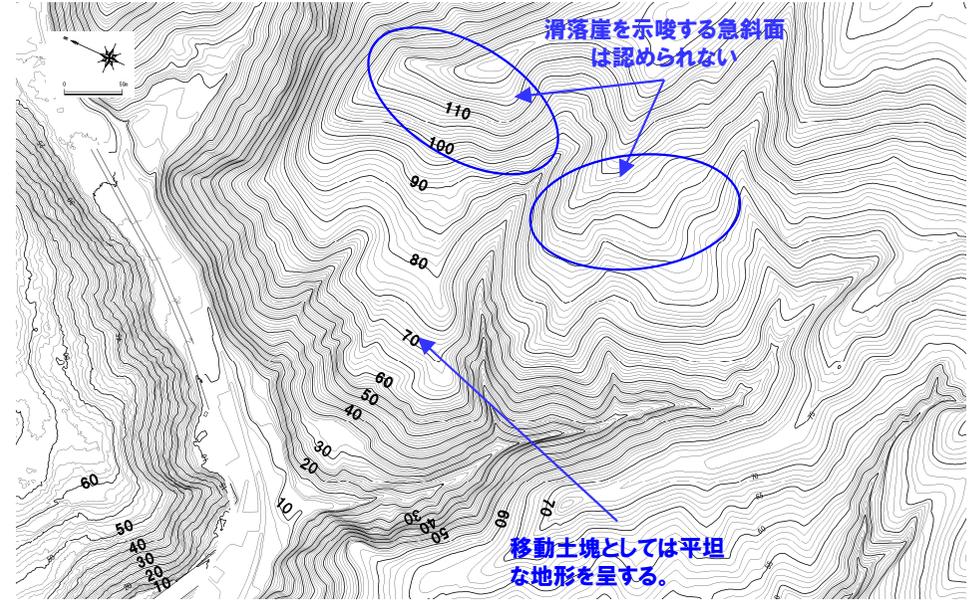


敷地における当社地すべり地形判読結果

【現地確認⑥(b)】 地すべり地形 (茶津側-敷地内-)



空中写真(1976年国土地理院撮影)



当社で抽出した地すべり地形
(地形図は、1976年国土地理院撮影の
空中写真を使用した空中写真図化により作成
(1mコンター))

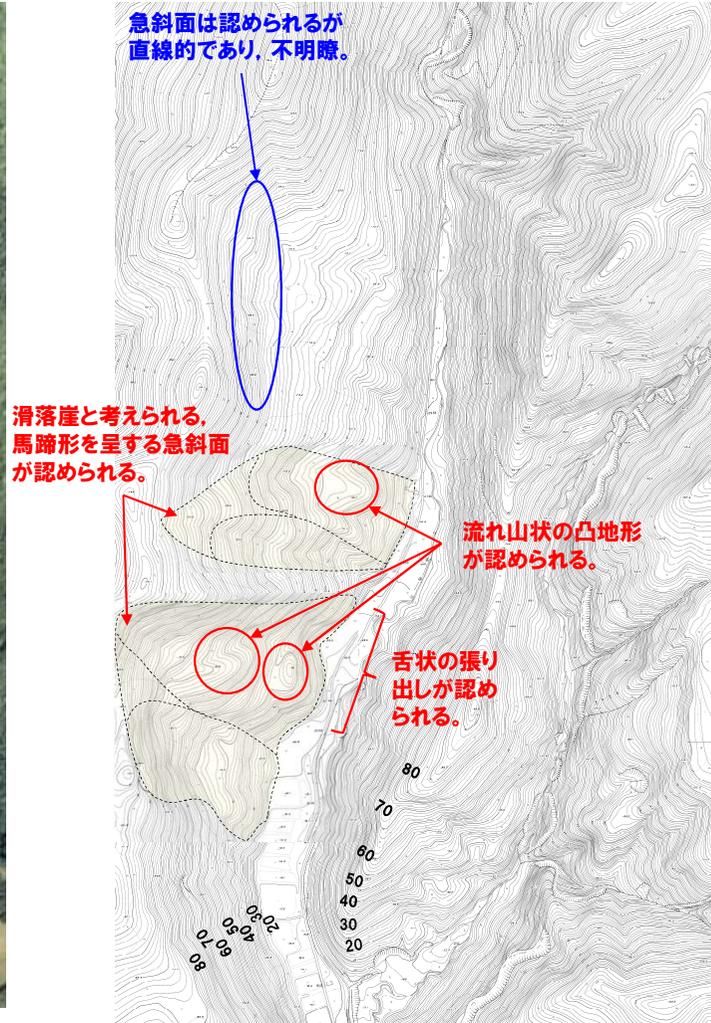


防災科学技術研究所「1:50,000地すべり地形分布図」

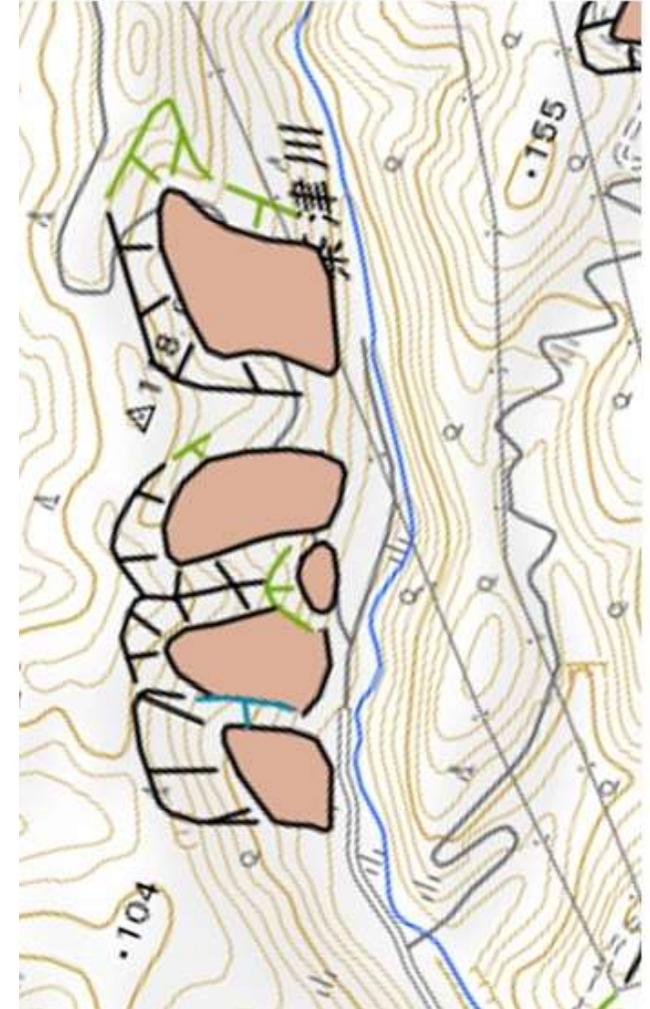
【現地確認⑥(b)】 地すべり地形 (茶津側-敷地外-)



空中写真(1976年国土地理院撮影)



当社で抽出した地すべり地形
(地形図は、1981年に航空測量により当社作成(1mコンター))

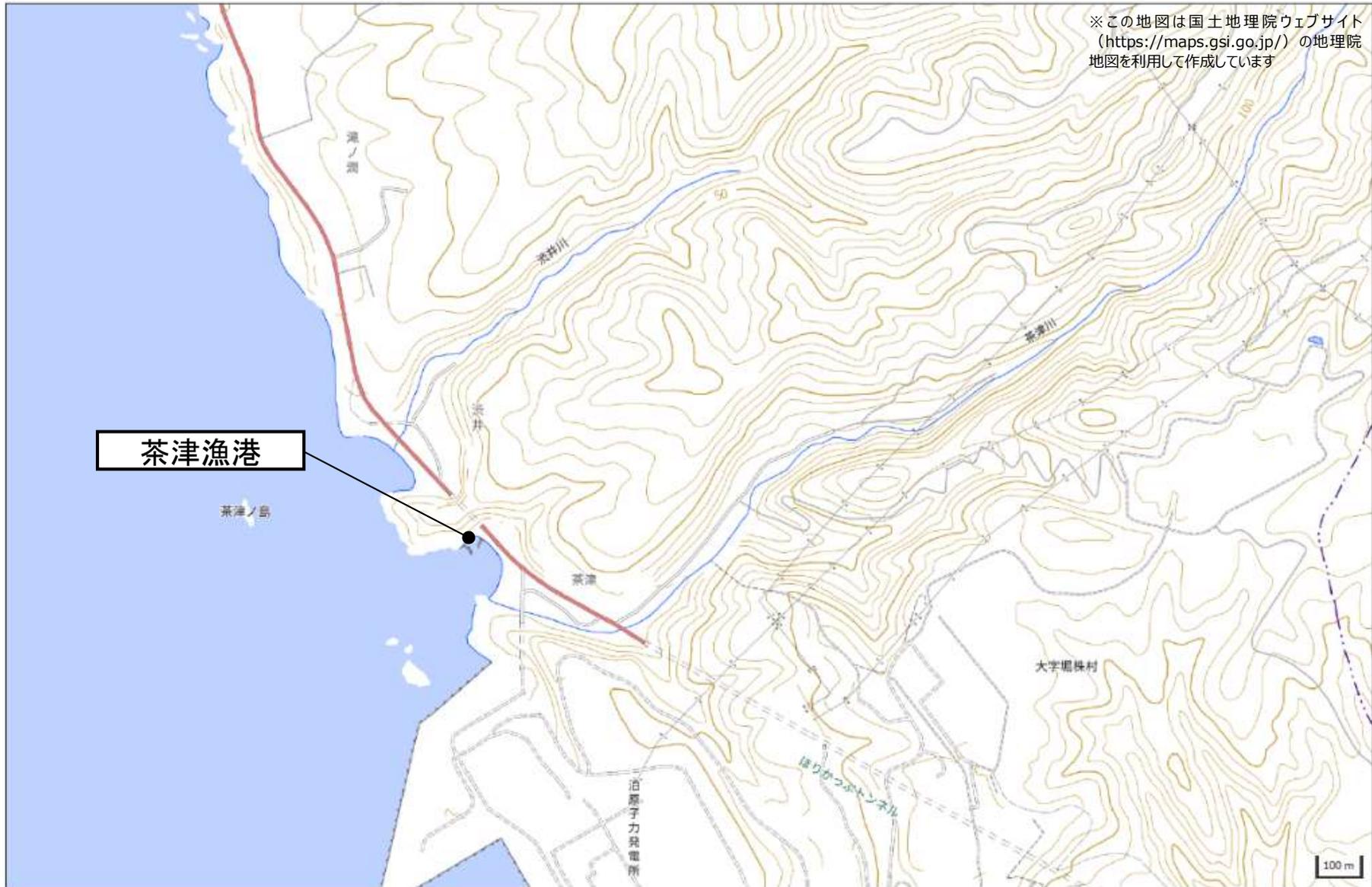


防災科学技術研究所
「1:50,000地すべり地形分布図」

300m

【現地確認⑥(c)】 茶津漁港

⑥：茶津の沢周辺



【現地確認⑦】 泊漁港

⑦：泊漁港



【現地確認⑩】 神恵内漁港

⑩：神恵内漁港

